

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	とらいあんぐる つばさ			
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 11日		～	令和6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 11日		～	令和6年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 充実した活動プログラムを構築している(個別、集団、音楽、体操など) 一人一人の課題に合わせた個別活動を行っている 野外活動や外食行事を行い、様々な体験が出来るよう取り組んでいる 	5領域を踏まえ、週単位の活動内容を作成し、バランス良く様々な活動に取り組めるようにしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が興味、関心を持って取り組める活動内容を検討していく 行った活動について話し合い、改善点を次の活動に生かして行けるよう取り組む
2	職員の資質向上の為、定期的な社内研修を行い外部の研修にも積極的に参加している	研修で学んだ事を全職員で確認し、共通理解を持てるよう努めている。 感染対策などの研修は実演を行い、実践的な対応を確認している	外部研修など、多くの職員が広く研修を受ける事が出来るように、また、研修で学んだ事を日常的に職員間で話し合える環境を整備して行く
3	<ul style="list-style-type: none"> 法人内に複数の事業所があり、児童発達支援の利用から、放課後等デイサービスの利用移行がスムーズに行えている 育児相談 小学校に向けての取り組み 	事業所間で連携し、情報の共有を行っている。 事前に移行先の事業所の体験活動も行うことでスムーズに移行することが出来ている	引き続き連携を取り、情報を共有することで利用者が落ち着いて新しい環境に慣れることが出来るよう配慮して行く

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流	コロナ禍や季節的な感染症の流行があり、難しい状況である	未だコロナ、他、感染症が流行している状況を見極めながら、再開できる道筋や代案について検討を行っていく
2	保護者への事業所対策等の周知が不十分	毎月の通信やホームページ、連絡帳など活用し事業所の取り組みについて発信しているが、行事や活動の様子が中心となる事が多い	感染対策や権利擁護研修など職員の取り組みの様子についても情報を発信して行く
3	利用者が過ごすスペースの狭さや施設の老朽化	建物の構造上の課題と利用者の年齢幅に関わる課題となっている	<ul style="list-style-type: none"> 設置物の配置やパーテーション配置を工夫し状況に合わせて適切な空間を確保して行く 活動内容を工夫して取り組む